

## 水土里レポート 投稿様式

|           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| 投稿月日      | 令和6年7月1日                         |
| タイトル      | 地域の生物多様性シンポジウム「スイゲンゼニタナゴの保全」に参加！ |
| 水土里レポーター名 | 水土里ネット福山 佐々田 愛                   |

令和6年5月25日（土）福山市のまなびの館ローズコムにおいて「地域の生物多様性シンポジウムスイゲンゼニタナゴの保全」が開催されました。約126名が参加し、大きな関心が寄せられている事を実感しました。

スイゲンゼニタナゴは二枚貝の中に卵を産むタナゴ類の一種の淡水魚で、広島県福山市と岡山県で生息が確認されています。近年の農業用水路の三面コンクリート化や水田の宅地化により生息が減少し絶滅寸前の状況にあります。

今回のシンポジウムは、芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会・スイゲンゼニタナゴを守る市民の会・びんご自然史研究会の主催で開催され、水土里ネット福山（福山市土地改良区）は同協議会の一員であることから参加しました。

シンポジウムではスイゲンゼニタナゴの保全について7つの講演が行われました。

- ・「スイゲンゼニタナゴ保全の最近の状況」中国四国地方環境事務所野生生物課
- ・「スイゲンゼニタナゴ保全に関する中高生からの提言」近大広島中高福山校科学部
- ・「宮島水族館における希少生物の域外保全について」廿日市市立宮島水族館 田守泰裕氏
- ・「プールを用いたスイゲンゼニタナゴ保全の取り組み」福山市環境保全課
- ・「兵庫県千種川水系におけるスイゲンゼニタナゴと国内外来種カゼトゲタナゴの分布の現状」岡山大学応用生態学研究室 森内海渡氏
- ・「芦田川のスイゲンゼニタナゴの遺伝的特徴と保全」三重大学生物資源学部教授 河村功一氏
- ・「保全活動最前線にある氷見市のイタセンパラの実践」氷見市教育委員会文化振興課主査 西尾正輝氏



近大広島中高福山校科学部の学生による講演は、スイゲンゼニタナゴのみならず生態系全体の課題や改善点、活動について発表されました。未来に繋がる内容で大変勇気をいただきました。

スイゲンゼニタナゴ保全の取組として、水族館や学校などで域外飼育が実施されていますが、水槽飼育による人工受精による増殖であることから自然繁殖能力を保持しているか懸念されていました。

協議会では廃プールを改修して飼育池を整備し、水槽で飼育してきたスイゲンゼニタナゴの幼魚を導入して無給餌による粗放的飼育を実施しました。1年目、2年目ともに無給餌で幼魚の成長を確認し仔魚も確認できました。

何世代にもわたり人口受精で継代飼育されていたにもかかわらず、自然繁殖能力が失われていなかったことに生命の神秘と力強さを感じました。

今回のシンポジウムでは、遺伝的特徴や分布状況といった学術的な話もお聞きすることができ、スイゲンゼニタナゴを取り巻く状況を深く知る機会となりました。

また、氷見市教育委員会文化振興課主査 西尾正輝氏のイタセンパラの保全活動をお聞きし、同じ淡水魚であるスイゲンゼニタナゴの保全にも活かせることがあると思いました。

シンポジウムを終えて、スイゲンゼニタナゴの保全に危機感を強くしましたが、同時に希望も見出せたと思います。

水土里ネット福山では、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたって芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに農業用水の果たす社会的役割の重要性を発信することで、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。